

令和4年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3 年 22.4.19	学校	98	61	42	43	5.9	13.0	4.2
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	93	48.3	52.7	50.5	56.2	49.2	12.3	4.0	9.4	4.3	6.4
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	55.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
	大阪府	—	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1

※ 3年生の理科はC問題を選択

令和4年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

令和4年度 3年「チャレンジテスト」結果の概要

理科を除いて、大阪府平均を下回った。

※分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】「書くこと」「話すこと・聞くこと」「読むこと」の全てにおいて課題がある。

・「漢字」問題については、読み、書き共に正答率が大阪府平均に近づいてきた。

・「古典」問題の中で、現代語に訳す問題では、大阪府平均を上回ることができた。

・自分の考えをまとめる等の「書く」問題は正答率が低かった。

・成果として、2年時より、「漢字」「古典」「文法」を重点的に学習した。授業の振り返りの教えあいや、長期休暇の課題として出題したことも、その成果が出たと考えられる。

【社会】

歴史的分野

特徴的な(基礎的な)知識を問う問題に関しては、語句を解答することができているが、歴史的背景が時間系列や横断的に理解できていないので、深くまで事象をとらえることができていない。例えば古い順から並び替える問題や、同時代の様子を関連付けて答える問題などはできていない。

地理的分野

気候に関しては、何度も学校で復習しているが、地形図の読み取り等に関してはできていない。同じ資料を読み取る問題で差が出るのは、学校(塾)での授業やテストだけで学習を終えている生徒が多いと思われる。また場所がどこにあるのか、都道府県の位置など基礎的なことに関しても、あいまいな生徒が多いので、事象と位置を一致して理解できていない。

【数学】「数と式」「関数」「図形」「データの活用」の全てにおいて課題がある。

学習指導要領の領域のうち関数の平均点が大阪府と比べて1.9ポイント低くなっており、他の領域と比べて一番低い結果となった。設問別の結果においても関数の問題ではすべて大阪府の正答率よりも低い結果となっている。

【理科】今年度の結果としては、「大阪府平均55.9点・本校56.2点」という結果であり、大阪府の平均点から0.3点上回った結果となった。昨年度、2年次に受験したチャレンジテストの平均点では、大阪府より-1.3点であった。今年度の大阪府平均から+0.3点であったことをふまえると、学習への意欲が上昇傾向であると考えられる。

今回の設問では、「エネルギー領域」「粒子領域」で大阪府平均を上回る得点率であった。

「エネルギー領域」では、【1年生の音】の範囲から出題された。1年生の内容は、1学期に復習しており、夏休みの宿題にも1年生の範囲の問題をさせていた。また、「粒子領域」では【2年生の酸化還元】の範囲から出題された。1学期に行った第一回実力テストに同じ分野を出題していた。これより、本校生徒にとって、チャレンジテスト前に再確認ができていた。また、「地球領域」は大阪府の平均に迫る得点率であった。「地球領域」では、【火成岩や柱状図】について深く理解ができていない生徒が多いことが読み取れる。2学期で行った実力テストでも、1年生の「地球領域」は苦手な生徒が多かった。

【英語】大阪府平均と比べて5ポイント下回った。分野別にみても「聞くこと」で4.6ポイント、「読むこと」で5.8ポイント、「書くこと」で4.5ポイント下回る結果となった。

設問及び小問別にみると、所見の英文に対応する問題や、授業をしてから時間が経過している問題に対しては忘却が見られ、正答率も府平均を下回っていた。

特に、「聞くこと」や「読むこと」の問題で資料がついている問題では、英文の内容を理解することに加え、資料を活用して答えを導きだすことに大きな課題がみられる。その原因として、英文を理解するだけで精一杯で、資料が英文に対してどの位置づけをしているかを理解するまで至っていないと思われる。

今回、すべての設題で大阪府の平均を超えた問題もあった。それは、「与えられた文脈に数語の英語を埋める問題(記述問題)」である。前回は、府平均を大きく下回っていた問題であった。このことを受け3年生になってから、生徒自身が学習活動で言えるようになったことをワークシートに書いたり、パフォーマンステストで定型表現を暗唱したり、使用してきた成果だと思われる。

点数の分布を見てみると、25点～29点までの層が多く分布している。その次は、55点～59点であった。これらの層をいかに引き上げていくかが課題となっている。

令和4年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

今後へ向けて

学力向上をしていくために、すべての教科の基礎である「読解力」を向上させていく方法がある。本校では、2022年度4月から、朝学活時に読売新聞社発行の「よむYOMUワークシート」を活用し、「読解力」向上を目指している。今年度末まで実施し、学力向上につなげていきたい。

【国語】子どもたちは、日々SNSを使いこなし、メールを打つ生活を送っている。しかし、その内容は短文化された文章がほとんどで、長文に触れる機会が激減している。読解力を向上させるには、語彙力・論理的思考力だけでなく、多角的な視点が必要であり、多くの長文に触れることが大切であるとする。2年時から取り組んでいる、時事問題についての発表に加え、入試対策の問題を通して長文問題に取り組ませたい。

書かれている文章に深く共感したり、心をときめかせたり、感激して思わず涙をこぼしたりする。卒業までの限られた時間ではあるが、そうした積み重ねを経験させてやりたいと考えている。

【社会】1週間に1回社会科の復習を入れているので、その時間内に出てきた語句、事象は覚えなおすことができても、普段からの家庭学習での復習が行われていないので、記憶が定着しておらず、また文章をよむという作業を億劫に感じている生徒も多いため、読解力が身についておらず、短絡的な思考、記憶が多くなり、簡単な語句しか答えることができないと考える。それを改善するためには、毎日の復習、社会科に限らず文章をきっちり読むという読解力、忍耐力を身に付けることが大事だと思う。そこから語彙力を高め、普段の講義内容の理解力の向上を図り、深い学びにつなげ、思考力を高める必要がある。今からというより、小さい時からの読解力の向上を図る上でも、文章を書き写して、内容をまとめるという宿題を絶対的に課せば、必ず学力は向上すると考えている。

【数学】入試問題において関数は他の分野との複合的な問題として出題されることが多く、点を伸ばすためには非常に重要な領域である。3年生は基礎クラス、標準クラス、発展クラスと完全習熟度別授業を行っている。基礎・標準クラスに関しては1年生の範囲である「比例・反比例」から徹底して理解しなおし、発展クラスでは複合的な問題にどんどんチャレンジさせていきたい。それぞれのクラスに合わせた能率的な授業を展開するために、通常授業（教科書を進める授業）と受験対策をどのように進めるとよいのかを数学科で研究し続けていきたい。

【理科】全体として、記述式の得点率が著しく低いことがいえる。これを改善するためには、「問題を読み解く力」と「考えを表現する力」を養っていく必要がある。授業の中でも、答えを導くことや文を読み解くことを苦手とする生徒も少なくない。暗記するのではなく、実験や観察を通して解答を導くための方法を指導していく。

1年生の「地球領域」や3年生の「生命領域」は、校内の実力テストでも、点数を落としやすい生徒が多いことから、問題集を宿題に出すだけでなく、授業内で解説する時間を確保し、指導していく。

【英語】英語は、音声が全ての基本となるので、音声を大切にしたい指導をこれからも、継続していく。特に音読は、英文の読解の際にペースメーカーにもなるので、日々の習慣として定着できるように手立てをしていく。

初見の英文に対して、苦手意識が強いので、「読みトレ」などの投げ込み教材を活用し、教科書以外の英文に触れる機会を増やしていく。

基本的な問題については、文法導入の際に、必ず以前に学習したことと関連付けながら、新しい文法事項につなげ、定着を図っていく。

「書く」ということに関して、少しずつではあるが、成果が出始めている。授業で段階を踏んで書く機会を増やし、質の高い英文を書けるように指導をしていきたい。

普段の授業でも基本問題（共通の課題）だけではなく、問われ方が変わったり、資料を活用する問題にも対応できるように、ジャンプの課題等も行っていく。